

識者「根底に強者論理」

米軍幹部投稿 沖縄差別を指摘

現役の米軍幹部が、意に沿わない動きを攻撃した事例がまた明らかになった。受け継がれる差別感情に加え、最近では「ネット右翼」と呼ばれる市民との連携も目立つ。

(1面参照)

在沖米海兵隊のロバート・エルドリッジ政務外交部次長は、シンクタンク「新外交イニシアティブ」を騒音」や「不協和音」になぞらえた。これに対し、事務局長の猿田佐世弁護士(37)は「これまでの外交に『音』がなかったことが不健全だ。今の外交は辺野古推

米國務省が日本部長のケ

ビン・メア氏が「沖縄はごまかしとゆすりの名人」と発言した時も、現場で聴いていた。「根底には強者の論理がある。日本を差別し、その中でさらに沖縄を差別

している」と指摘した。エルドリッジ氏は、米軍への抗議を批判するネット放送局の番組にも出演。抗議中の人が「茶番」と中傷したケイリア・イームス報道部次長も「オスプレイファンクラブ」の人々との交流をフェイスブックなどににつづる。

現場で抗議を続ける小橋川共行さん(72)「うるま市」は「沖縄の歴史を知らず、抗議活動を矮小化する点で、彼らはよく似ている」と言う。現に、ゲート内の内側で、こうした市民と米兵が談笑する姿が見られる。「人をあざけり笑い、一化する。どちらも見通す。抽象的な言動で自らを正当化」

米軍関係者の主な問題発言

1995年11月	米兵3人による暴行事件で、リチャード・マッキー米太平洋軍司令官が「犯行に使用した車を借りる金があれば女を買ったのに、3人はばかだ」
2001年1月	米兵による強制わいせつ事件で、ゲーリー・アンダーソン元キャンプ・ハンセン司令官が米紙取材に「海兵隊員の犯罪率が特別に高いと思わない。米軍のプレゼンスに反対する日本の政治家が、すべての事件を宣伝している」
04年8月	同事件を受けた県議会の海兵隊削減決議に関連し、在沖米軍のアール・ヘイルソン四軍調整官が知事や金武町長らが反対の意思を示さなかったとして、部下あてのメールで「彼らはみんなばかだで腰抜けた。私は彼らをそう呼ぶのを楽しんできた」
05年7月	在沖米軍のロバート・ブラックマン四軍調整官が普天間飛行場や嘉手納基地について「何もない場所に空港を造ったのに、その周辺に人が集まってきた」
11年3月	ケビン・メア國務省日本部長が10年末、米大学生らに行った講義で「沖縄はごまかしとゆすりの名人。怠惰でボーヤも栽培できない」
12年8月	ジェームズ・エイモス米海兵隊総司令官が米軍放送に出演し「オスプレイは過去10年間は無事故」
9月	アルフレッド・マグルビー在沖米総領事が就任記者会見で「普天間飛行場が特に危険とは認識していない。どうして周りに(住宅が)密集したのか不思議だ」

「植民地意識の表れ」ラミス氏

米海兵隊員として沖縄駐留経験がある津田塾大名誉教授で、政治学者のダグラス・ラミスさん(78)「那覇市」は、相次いで発覚した米軍関係者の発言について「(米軍内の)大多数の本音。『よき隣人』とPRしているが、そう思っていない人が多い」とみる。

米軍の主流の考え方は「沖縄は戦利品で、自分たちがいないと駄目になると考えている。沖縄を守り、経済貢献もしているのに、なぜ感謝されないのかという植民地意識だ」とした。

問題発言を生む意識について「先輩や前任者から伝えられるもの。マニュアルはないが暗黙の了解」と指摘。1960〜61年の自身の沖縄駐留を振り返り「あのころは経済格差が激しく、米軍優位だった。今は経済状況が変わったが意識はそのまま」と言う。

米軍の意識変革には「議論では無理。辺野古や普天間の抗議行動を粘り強く続け、基地を減らせれば変わるかもしれない」と話した。